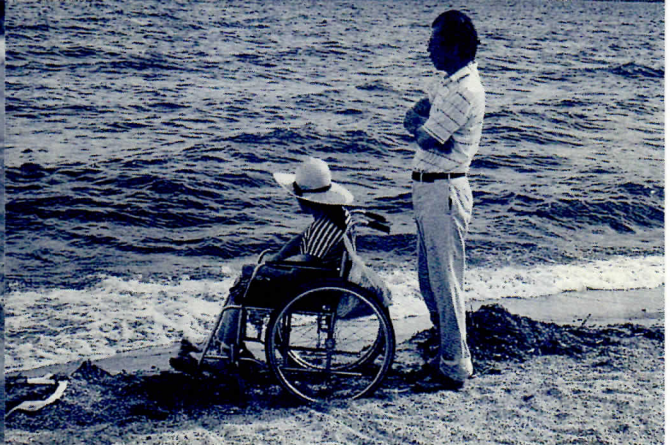
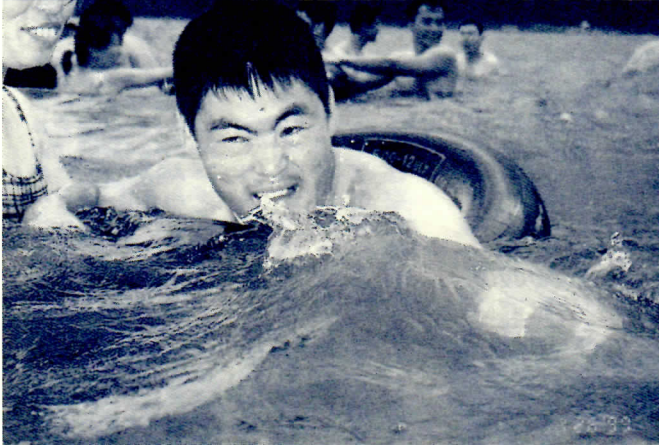




おちほ

第35号 平成11年10月10日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

夏の思い出



七月二十六日から二十八日まで、高島郡の白浜荘へ湖畔学舎に行ってきた。当日は台風が近づいていたために、雨こそ降らなかったものの、すごい風。琵琶湖は大波が立ち、泳ぐのは危険かとも思われました。しかし、寮生さんたちはその大波も何のその、浮輪を持って波乗りをして大はしゃぎでした。水の苦手な寮生さんは、顔に水がかかると驚いた顔をしたり、浜辺で水遊びを楽しんだりしました。

二日目には水上運動会を行いました。あまりの風で準備していたダンボールが水に濡れたり飛ばされたりで、さらには眼鏡をなくしてしまふ職員も出てくるほどでした。この日の夕食はバーベキュー。肉や野菜を鉄板で焼いて食べました。そのあと、歌ったり、踊ったりのアトラクションを楽しむという、盛りだくさんの一日を過ごしました。

天気は今一つだったものの、旅館の方々の親切な対応と、寮生さんの笑顔に支えられて、とても楽しい湖畔学舎を終えることができました。みなさん、おつかれさまでした。

昔々今ふく

智美さんの帰省

理事長 増田正司

お盆の帰省が始まると、いつもざわざわしている寮内が静かになります。家に帰れない寮生と留守

番の職員だけになります。1年を通して、寮内に人の気がなくなることはありません。予定をきりあげ急に帰寮する寮生もあり、休暇

中の職員が呼び出されたこともあります。帰省の時期に職員が頭を悩ますことが増えます。帰

れる子は楽しそうに、帰れない子は不機嫌にイライラがつのつていくのがわかります。大方が帰って、寮内に残ることがはつきりして、爆発した興奮を職員

が如何になだめすかしても鎮まりません。残留生の対応に追いまわされます。

久しぶりに家に帰っての数日は、家族だんらんのうち過ぎます。

少しづつ気ままで出てくるようです。寮の生活でたまった緊張のストレスを、家に帰って発散するのでしょう。遊び仲間は見あたらず、外に出たくも「危ない!」からと止められ、反動的に家族の意にそわない行動に走ってしまい、家族

を困らせてしまいます。手が追えなくなれば寮に連絡するしかありません。

他の施設に移った智美さんの帰省を忘れることができません。寮

内で愛敬一杯の人気者、いつも笑いを提供してくれました。保母さんに叱られ、しよげて「しえんしえいおこつてはるわ」とゆっくりゆっくりのたまうと、保母さんも笑い出して終りです。発作抑制の薬の多用からか、身体の動きままなら



▲S57年、梅組外出にて

ずなのに大汗かいて動きたくて仕方ない彼女でした。

律義なご両親

は、当時の国鉄で2時間以上かかれば帰省日に迎えないと決まっていた。智美さんが大喜びするのは言うまでもありません。

石部駅まで寮のマイクロバスで送り、それから先2回乗り換え、更にバス

に乗り継いで帰ります。お母さんは他の乗客に遠慮して(?)車内に入らず、デッキに立って終始彼女をあやしなから過したようです。彼女を担任した本田憲生君からしみじみと聞かされたことがあります。お母さんは帰省のたびにしんどく、きつい往復を繰り返してくれたのです。寮生に楽しい帰省が親御さんにはいへんな負担になっていると思います。ほくが主宰したときの帰省のやりかたを、もっと工夫すべきだったと反省しています。(99・8・25)

昔々今ふく

はつわやかさをありがとう

寮 長 山 下 陽 一

以上に来場いただいたようです。演奏会終了後、観客が退場した後まだ彼らには仕事がありました。数人がフロアの忘れ物や落とし物の確認をし、ホールのごみ入れなどの掃除をしてくれるのです。その自然な様子を通してこの演奏会全体にわたり、生徒達のさわやかさをいろんなところで感じる事ができました。

地元にある甲西高校の吹奏楽部が、近畿地区を代表し全国コンクールでも水準の高い実力を持つていて、その演奏を身近に聞くことができるのは地域住民にとり幸せなことだと思います。これは一種の地域の無形の文化財産だとも思います。永く大切にされるべきだと思います。先輩から後輩へ、レバトリートとテクニクなど演奏水準を維持し継承していくことはたいへんなことなのでしょうが、このような演奏会の機会に触れることにより、青年たちの強さと優しさと爽やかさがわたしたちにいろんな感動をあたえてくれます。ブラスの皆さんありがとう。そしてこれからも続けてわたしたちにもあなたたちの感動を分けてください。

七月二十五日、石部町文化ホールで地元の甲西高等学校吹奏楽部により「あざみ寮もみじ寮&おちほ寮改築支援のためのチャリティーコンサート」が開かれました。全国コンクールにおいて優秀な成績を収める高校生たちが、わたしたちの計画のためにひとほだぬいでくれました。このチャリティーコンサートにおいて、百人を超える部員を擁しているこのブラスバンド部の生徒達は本当に爽やかな印象を残してくれました。

器を使ってエキゾチックな響きを出したり、アニメソングや演歌なども織りませいろんな世代を楽しませてくれる構成になっています。余興として演奏曲に合わせた生徒達の企画によるコントなど、一つひとつですがすがしい気持ちを与えてくれました。

の三年間で極めて完成度の高い演奏まで達することができるのは大きな驚きです。それほどに可能性が拡大される力がこの時期に潜んでいることに、次第に融通がきかなくなつたわたしは羨ましささえ感じます。

また、指導に当たる磯田先生が「この夏一番の恐いこと」として一年生新部員のみによる演奏コーナーがありました。中学生のときから楽器演奏の経験がある生徒達もいるのでしようが、楽器はブラスに入って初めてと言う生徒も多しなな、演奏のなりゆきが心配だということでしょうが、なかなかどうして、わずか四カ月の練習で合奏ができるのです。高校のそばを通るとき、グラウンドの片隅で音出しの練習風景をよく見掛けますが、おそらく練習もひととおりのものではないでしょう、高校生活

演奏しているときの彼らは、永年指導を続けてこられた磯田先生の指揮棒を食いつくように見つめながら演奏し、その演奏には胸に迫るものを感じました。わたしの持っているイメージは、吹奏楽という運動会やカーニバルに演奏される「アメリカンパトロール」「威風堂々」などのマーチ音楽だけですが、今日の吹奏楽は民族楽

「この夏一番の恐いこと」として一年生新部員のみによる演奏コーナーがありました。中学生のときから楽器演奏の経験がある生徒達もいるのでしようが、楽器はブラスに入って初めてと言う生徒も多しなな、演奏のなりゆきが心配だということでしょうが、なかなかどうして、わずか四カ月の練習で合奏ができるのです。高校のそばを通るとき、グラウンドの片隅で音出しの練習風景をよく見掛けますが、おそらく練習もひととおりのものではないでしょう、高校生活

建物は今―遂に完成：半分だけど！

待ちに待った新寮舎が、この六月に完成し、引き渡しくなりました。現段階では、女子棟、食堂、厨房、洗濯室、機織室等、全体の三分の二程度の完成となります。しかし、それでも、何となく先が見通せるようになり、幾分安心しています。

▲正面右側より



六月六日から引越しを開始し、十三日から実際に使用開始となりました。使いこまちについては、



▲食堂です

他の紙面を読んで頂けたらと思います。

さて、残るのは男子棟。こちらの方は、それなりの準備を終え、六月中に残りの旧厨房・お風呂場・ポイラー室・洗濯室・そしてA棟の解体工事を終え、八月の第一週目には、要聖もできあがり、よいよ新男子棟の基礎工事に入りま

した。二の轍を踏まぬよう、女子棟を踏み台にして(女子棟には申し分ありませんが)、更に、住み心地の良いものになりたいと思います。

みんなは今



女子棟・食堂棟が完成し、その生活が始まりました。六月、少し落ちついてきたかという頃に引越をしまぬか、再び不安定気味になる人もいました。特に女子寮生が引越した所は、全くゼロからのスタートだったので仕方がないのかも知れませんが、その言葉に甘んじることなく少しでも早く落ち着いてもらえようように願っています。日々を生活しています。新しい女子棟は、一人又は二人部屋で、長い廊下が印象的な作りです。寮生さんの中には(なぜか男女間わず)その長い廊下をこれでもかと走る人がいます。また各居室をはじめ、鍵が多く、今までも鍵はあつたのですが、その多さに不便を感じずにはいられません。しかし居室に鍵があつた事で自分の居場所が確保され、落ちついてい

夢への軌跡

DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE.

男子棟はというと、旧A棟を使つて生活していたタンパーは旧C棟とになりまして。寮生さんにしてへり越しとなり、こちらも慣れない環境での生活となりました。みれば、何で? という思いがあるかも知れませんが、新しい男子棟が出来るまでの間が、お風呂の作らうしがあります。お風呂の作らうしは、



新しい女子棟前で納涼祭

場面で、色んな場面でストレスを溜めているだろう。今、環境に慣れようというしている寮生さん達には頭の下がる思いです。本音は仕方ありません。というところかも知れませんが、来年三月には全てが完成の予定。ですから、せめて毎日送れるようにと頑張りたいと思います。

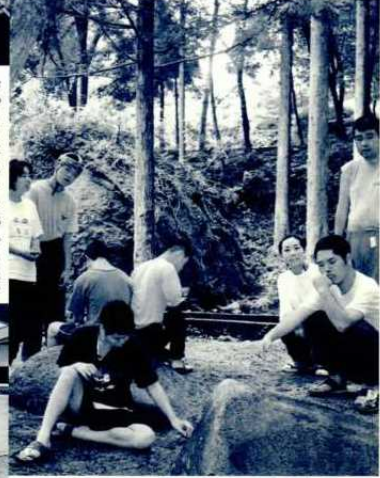
落穂寮成人施設建設に際しては、左記の方々に多大な御寄附を頂きましたこと、心から御礼申し上げます。(平成十一年五月七日〜八月九日)

(敬称略・順不同)

山北喜代 武田久太郎 武本修二 本野繁夫 藤本清美
本雪子 山田文男 上田直美 雲浦直美 志茂久美
吉田信雄 谷口一夫 加納忠雄 木村伸次 樽野茂
藤田博行 石田茂 移田治男 石田住次 松田功 山崎宏志
永森富美子 三上安生 白瀬常博 てらもと食品 石部町民
生委員・児童委員OB会 黒川ひさ 宮田キヨ 小出秀幸
前田善十郎 ㈱アサヒ製作所大阪営業所 今井悟 ㈱相屋幸三
ン所 ㈱リカショップなむら ㈱そぼ市工業所服部三
(㈱)映 (㈱)ハリス滋賀石部 小山(㈱) (色)大丸醤油店 滋賀日
産自動車水口店 ㈱大経時計電器店 ㈱青木薬局 青木美揚子
ム(㈱) 吉慶神社 山本英荘 金新茶舗 東京ヤクルト販売ス
㈱竹田勝享堂 田村美枝子 小林義雄 ㈱北川商店 ㈱谷口商
会 石部中学校職員一同 馬越節夫 日本旅行 村田田嗣(㈱)
㈱日川屋 小林果彌(㈱)いそへ 伴生乳店 勝見芳文 中村新
一郎 北村新一郎 北村安男 久米田藤子 穴山秋男 岡山積
肉店 三坪麻由美 伴千良 (㈱)S・T

『行って来ました、石水溪』

8月5日、今にも雨が降りそうな天気の中、三重県亀山市にある石水溪へ行って来ました。男子棟寮生31名、職員13名、という大所帯で、マイクバス一台では乗りきれず、二台仲良く連なって、お出掛けでした。石水溪のキャンプ場近くにとてもきれいな川が流れていて、まずびっくり。川に足をつけてみて、その冷たさにまた



びっくりしてしまいました。少し川床で遊んだ後はお待ちかねの昼食。今回のメニューはパーベキュー、焼けた、と思ったらアツという間になくなる、の繰り返しでした。パーベキューが余程おいしかったのでしよう。食後は再度川原へ降り、元気な人は水着に着替えて水遊びをしています。蒸し暑かつ

たので、きつと持ち持ち良かったことでしょう。川でも充分遊んだら今度は西瓜を頬張る番の筈がありました。中にはそんなに食べずおなかは大丈夫？と心配に思う人もいましたが、たぐくんでおなかがいっぱいになった後は皆で記念写真をとり、いざ帰路へ。おなかも満足でマイクバスの揺れ具合がタイプいのか、帰りの車中では、ウトウトと船をくぐ交もチラチラ。石水溪での水遊びの続きもまた次の機会を楽しみましょうね。



男子棟

女子棟

新たなスタート

寺田 政彦

夏の思い出



新しい女子棟での生活も、もう三ヶ月が過ぎようとしています。初めの頃は新しい環境になれず、戸惑っていた寮生さんも、今ではそれぞれの居場所を見つけ落っついて生活し始めています。

新しい建物もいいですが、やはり外出は寮生さんにとって楽しみの一つです。八月四日の飯盒炊き込みでは雨が降ったり止んだり、と生憎の天気でしたが、寮生さんと共に職員も思う存分楽しませました。



雨に濡れて嫌だった人も、もっと遊びたかった人もいるかもしれませんが、それも夏の思い出とせうこと……。また今年行く時は快晴であることを願っています。

六月月上旬に新しい食堂、厨房が完成し、いよいよ新しい厨房が動き出しました。初めの一、二週間ほどはとりあえず物がどこのにあるかわからず、段取りがわからず、つめな中身の出発となり、毎日が疲弊感二倍でしたが、日が経つにつれて慣れてきた様で、今はスムーズに仕事を進んでいます。

新しいキッチン、厨房ですが、今までのような設備もいくらか入っていますので、ここで少し紹介したいと思います。

ゆげのむこうがわ

一つは、エアコンが入ったという事です。真夏の厨房は、火を使うという点もあるのですが、室内温度が四十度近くになります。この温度は何もしなくとも、立っただけで汗が出るという状態で、働いている人間も辛いですが、その環境に置かれている食品も辛い状態なのです。エアコンと聞かれると

働いている人間が、快適に仕事ができるのが目的で設置されたと思われませんが、食品の腐敗防止、食中毒の防止の意味もあるのだと私は考えられています。もう一つは、食器洗浄機を導入しました。これは機械が食器を洗ってくれ、油などの汚れは、人が手洗ってから洗浄機に入ればならぬという欠点もありますが、洗浄作業のスピード化、清潔さという意味では役立っているのではないのでしょうか。しかし、木音を言う私にとって何故か少し寂しい気持ちもあります。新しくききたいという事は汚れが大変目立ち掃除が大変ですが、汚れていて当然という気持ちにならず、何年たっても今のきれいな環境が保てる様に提供していきたいです。

